

# 長江人形店

# 北川慎也さん

2021年1月15日、名古屋節句飾は伝統的工芸品に指定された。  
2022年2月25日付で国の伝統工芸士となった  
長江人形店2代目(芳峰)こと北川慎也さんを紹介する。

## 創業55年の人形店

伝統を重んじ、高き技術でひな人形を作り続けている長江人形店。創業者は長江芳彦(芳峰)さん。1957(昭和32)年に人形職人である故・水野玉二氏のもとで10年間の修業の後、1967(昭和42)年に扶桑町にて人形店を創業した。人形職人の1年は11月の販売に向けて2月の見本作りから始まる。当時は製作した人形のほとんどを問屋へ卸しており、数百組単位で受注したひな人形を製作。その技術と功績が認められ、1998(平成10)年に名古屋伝統産業協会より優秀技術者表彰を、2003(平成15)年には功労者表彰を受けた。



創業者・長江芳彦さん(左)と2代目・北川慎也さん(右)

だが、そんな長江さんの技術をこれから先もずっと継承していくことを誰よりも望んだのは、娘・三代子さんの夫である北川慎也さんだった。義父の素晴らしい技術を受け継ぐため、脱サラし職人の世界へ

北川さんは日間賀島で生まれ育ち、大学卒業後は一般企業に就職。営業マンとして忙しい日々を送るなか、1999(平成11)年27歳のとき三代子さんと結婚した。ここから北川さんの人生は大きく変わることになる。北川さんは休日になると、義父の仕事を手伝うようになった。

「簡単な作業しかできませんでしたが、手伝っているうちに、すごく素晴らしい仕事だと思いました」と北川さん。

ちょうどその頃、自身の営業という仕事に完全燃焼し、興味が薄れていくのを感じていた。

「一生かけても極め尽くすことができない仕事をした」と考えたとき、その仕事は、義父と同じ人形職

人になること、という考えに行き着いた。また、ずっとそばで見続けてきた義父の匠みな技術を次の世代までつなげていきたいという思いがさらに背中を押した。

しかし、当初義父からは歓迎されなかったという。それは、あまりに厳しい世界だから、という親心からだろう。それでも信念を曲げない北川さんに「やるなら自分で道を切り開け」「見て覚えろ」と答えたのだった。

こうして長江さんに弟子入りし、義父を「親方」と呼ぶ修行の日々が始まった北川さん。しかし、じつと作業を見つめている暇はなく、すぐに仕事につながる作業をしなければならなかった。内職やパート従業員に作業を振り分けたり簡単なパーツの裁断などが北川さんの仕事となった。時には従業員に作業内容を伝えるため、自らが習得の必要を迫られる。そんなときは長い経験をもつ従業員に教わりながら、少しずつ仕事を覚えていったが、人形製作には複雑な作業が多く、習得までの道のりは長かった。

## 評価として形になった自分の技術

問屋から注文をもらい、親方が作った人形を納める日々が10年過ぎた頃、北川さんのなかにある思いが浮かび始めた。

「終着点のない職人としての人生を、より価値あるものにできないだろうか？」

そこで2009(平成21)年に長江人形店初となる中部人形節句品コンクールへのチャレンジを決めた。親方でさえ経験のない未知の挑戦だっ

たが、結果は最高賞となる経済産業省中部経済産業局長賞を受賞。当時の北川さんがもつ技術で可能な限りの表現で配色、形、出来栄えにこだわり、「美しく、斬新だ」と評価された。この結果が励みとなり、翌年も再び最高賞を受賞。以降、毎年コンクールに出展し、愛知県知事賞・名古屋市長賞・岐阜県知事賞など常に上位入賞を果たした。また2017(平成29)年6月には名古屋伝統産業協会より功労者表彰を、同年11月には名古屋技能職団体連合会より優秀技術者表彰を受けた。

## 40年間の悲願達成

ほとんど手作業で製造されたもの、③伝統的な技術や技法によって製造されたもの、④伝統的に使用されてきた原材料を使っていることとされる。名古屋節句飾には人形だけでなく、幟旗類、雪洞も含まれているが、認定されるために、これらの製造元を含む中部人形節句品工業協同組合員が約40年間活動を続け、やっと悲願が果たされたのだ。その間、志半ばで亡くなった、廃業した職人もいたという。「名古屋様式の人形を名古屋地域で100年前に誰がいつ作ったか？」という現物資料と今でも技術が伝わっているという系譜や国の指定に必要な技術・技法などに関する書類作成に膨大な時間と労力を費やしたからだった。ちなみに「名古屋節句飾」は、人形は京都と東京の2大産地に拮抗しつつも東西の良さを折衷した様式が特徴。④の伝統

## 長江人形の制作過程



1 錦の厳選 2 錦の裁断 3 着せ付け 4 振り付け



「ネモフィラの丘」中部人形節句品コンクール企画部門 優秀賞受賞



「万葉令和雛」令和元年経済産業省中部経済産業局長賞 最高賞受賞



「藍&愛」平成29年経済産業省中部経済産業局長賞 最高賞受賞

「伝統を守りながらも、時代にあったものを作っていきたい」

的に使用されてきた原材料を満たすためには天然素材で製作する必要があるため、人形の頭は桐壱頭や陶器素材の頭、衣装は絹や綿で織られ、天然のりや膠を溶かしたものを使っている。材料費と手間がかかるため、通常のひな人形より高額になってしまふものの、国から伝統的工芸品と指定された証となる金の伝統証紙とシリアルが付けられるため、値段には替えられない価値があったのだ。

## 人形職人から伝統工芸士へ

名古屋節句飾が伝統的工芸品に指定されたことにより、その技術者が高度な技術・技法を保持すると認定する国家資格「伝統工芸士」の受験資格を得た北川さん。2021年9(10)月にかけて知識・面接・実技試験を受験し、合格率6割といわれる

なか見事合格した。これまでどんなに素晴らしい人形を作っても「職人」の域を超えることは出来ない世界を国家資格である伝統工芸士の称号を手にしたことにより打破したのだ。かつてひな人形といえば7段飾りが主流だったが、住宅事情の変化などにより現在は親王飾りや3段飾りが主流になっている。そんな状況に「伝統を守りながらも、時代にあったものを作っていきたい」と北川さん。「まだまだ自分に足りないものを共有して、レベルアップしたい」と自身に課題を課しつつも、「展示会や講演会活動などを通して後継者育成に取り組み、伝統工芸士としての役割を果たしたい」と話す。100年以上続く伝統と技術を次の世代へつなぐため、北川さんの職人としての人生は始まったばかりである。



北川さんが製作し、初めて伝統的工芸品に指定された親王飾り。材料はすべて天然素材を使用



伝統的工芸品である「尾張七宝」と「有松鳴海絞」「藍染」とコロボした繊細なデザイン



information  
**長江人形店**  
 丹羽郡扶桑町大字高雄字南東川158  
 TEL:0587-93-0337  
 ●ショールームは11月～5月の期間のみ  
 新作雛人形、正月飾り、市松人形、各種ケース人形などを製作展示販売している。3月1日～5月人形の販売開始